

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400348		
法人名	アースサポート株式会社		
事業所名	アースサポートグループホーム若葉		
所在地	千葉県千葉市若葉区大宮町3,094-2		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人は、住み慣れた住まいでくらすことで、自分らしく生活する事ができ、安心して過ごせます。介護が必要となったときでも、変わりなく生き活きとした生活を送っていただけるように、地域に密着してお客様を支えます。そのために、お客様の期待を超えたサービスを提供し続け、「満足」を超えた「感動」のサービスを提供するとともに、健全な経営を行い、適正な利潤を生みだすことができる仕組みを確立することで、社会から選ばれる企業となります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR千葉駅から車で25分、市郊外の自然環境に恵まれた施設で、併設のデイサービス施設と合同で、災害対策、運営推進会議、各種行事、ボランティアの受入れ等効率的に運営しています。
2. 家庭的な雰囲気の中、利用者に寄り添った温もりのあるケアを提供し各階にオープン空気浄化装置設置、訪問歯科による定期的口腔ケア等、今回実施した家族アンケートでも好評で、平均年齢88歳(90歳超7名、10年以上入居者1名)で平均介護度2.6と低く、利用者は比較的元気に過ごしています。今年度コロナ禍の中、月2回訪問診療かつ24時間オンコール体制の医師・週1回訪問の看護師と連携し、2名の看取りを行い家族から感謝されています。
3. サービス向上に取り組み、各種改善事例がある他、改善計画2件の内1件は完全に達成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての人々が、住み慣れた街で、自分らしく生きがいをもって暮らし続けることができる社会を創造します。	地域密着を織り込んだ理念を施設内に掲示し、職員は毎月の職員会議時に唱和し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(夏祭り)などに参加し、地域との交流を考えていましたが、コロナウイルスの影響で中止になり外出も出来ない状態です。	従来行っていた地域との交流(夏祭りへの参加、芋堀り、ボランティアの受入れ、自治会長、民生委員の運営推進会議への参加等)は、現在コロナ禍の為一切中断しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の懇談会や地域での研修で認知症についての説明と相談窓口も考えていましたが、コロナウイルス感染で中止となりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一度、あんしんケアセンター、自治会長、民生委員、家族代表、職員などのメンバー構成にて施設での現状報告、意見交換を行いサービス向上に努めている。又、身体拘束等について、を議題に現状を報告すると共に話し合う予定でしたが、コロナウイルス感染で中止なり、書面での報告となりました	3か月毎に地域包括支援センター初め関係者が参加して、会議を開催していましたが、現在はコロナ禍の為、関係者に書類を送付し意見を聞く、書類形式の開催となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の方について行政との関わりを密に保ち、施設での問題があった際は相談助言を図っております。キーパーソンの問題、青年後見人の依頼など。又希望があれば施設見学も受け入れております。	ホーム長は、必要の都度市担当に報告・相談しています。又運営推進会議に必ず出席してくれる地域包括支援センターから意見を貰っています。現在関係行政機関からの要請に応え利用者1名を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和2年9月1日より、身体拘束等の適正化のための指針を作成し、それに伴い当事業所に身体拘束等適正化委員会を置き、3ヶ月に1度、運営委員会時に委員会を開催する予定でしたが、コロナウイルス感染で書面での報告となりました。	令和2年9月から身体拘束適正化委員会を設置し、3か月毎に開催し、それに伴い年4回職員の研修を行っています。又交通量が多い通りに面している為、行政、家族の了解の下、昼間も玄関に施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活を支援する事を考え、年間の社内研修は、実施しているが、外部研修はコロナウイルス感染で中止となりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回のユニット会議を開催し、自立支援についての意見交換会や成年後見人制度についても話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や料金形態および医療連携についての説明を予め日時を決めて説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日頃の生活において態度や言葉から不満・苦情を察し改善に努めている。ご家族の意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	コロナ禍の為、行政指導の下、直接の家族面談は中止していますが、家族要望に応え、リモート家族会(3名参加)を実施したり、写真を送付したり、電話を取り次いだりしています。現在月3回と限定的ですがウェブ面談を準備しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議で意見を頂き、コミュニケーションを図る様に心掛けている。職員からの意見箱も設置し、反映している。	ホーム長は、職員の意見箱を設置したり、日ごろおよび毎月の職員会議時に意見を聞き、運営に反映させています。又本社直結の相談窓口があり、職員の意見を組織的に汲み上げる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との意見交換を行い、現状についての改善内容やモチベーションの向上についての環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識と技術の向上を心がける為、スタッフ全員に年一回以上の社内研修を実施しており、スキルアップに努めている。外部研修はコロナウイルス感染で中止している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染ですべて中止となりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に必要な説明と本人の気持ちを受け入れて話を傾聴する事でゆとりある気持ちでスタッフとの関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の現在の不安や悩みを常に聞き入れて対応が出来るか話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを確認して改善に向けた支援の提案を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、暮すうえでの、パートナーの関係で食事の準備・掃除・洗濯などを本人と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題解決が難しいと判断した際に、ご家族に面会や外出はコロナウイルス感染で中止しているので、電話などで状況報告を常に行う事で関係作りの構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染で中止している。	コロナ禍の影響で交流は中止しています。入居前にお付き合いしていた近所の友人からの電話をとり継ぐ等、つながりを継続できるように支援しています。多くの利用者がコロナ禍の終息を心待ちにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	令和2年9月1日より、開始してから、孤立している利用者はいない。日中は殆どリビングで過ごされていて利用者同士で会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に連絡が出来る様に機関紙(お便り)を発送して関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴の違いの中で表情や態度で思いを受け止め、理解を図りながらコミュニケーションに努めている。	日々の関わりの中で言葉にしづらい思いを行動や表情から汲み取るようにしています。その思いや意向に関心を払って把握に努め、入居間もない利用者の毎日の強い帰宅願望に、家族が退院したら会えると説明する等の対応をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあセスメントを行い、不安を解消できる支援の構築に向けて情報収集の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、残存機能について把握をし、環境の変化に配慮した支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や自立支援に向けての意見交換を実施し反映した内容を介護計画書として作成している。	利用開始時はもとより、現状と介護計画が合っているか毎月カンファレンスを行い、職員全員で課題となることを話し合っています。状態が変化した時は計画の見直しを行い、家族とも話し合いを持ち計画を変更しています。	アンケートで「介護計画の話し合いをしていない」と回答した家族が数名います。今後は利用者がより良く暮らす為に、日常の会話や訪問の際に意見や要望を引き出せる様に働きかける工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容について経過を記録に残し、常にスタッフ間での情報共有又は、ユニット会議で、話し合い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状態や要望に応じて、通院の送迎を行う等の支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染で中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を大切にしながらかかりつけ医との関係を構築している。また、受診に同行し、施設内での生活について報告を行い、適切な医療支援に努めている。	月2回訪問診療を受ける他、変化が有ったり健康面で心配事がある場合は都度医師・訪問看護師に相談できる体制になっています。整形外科や眼科等の受診に家族が付き添う事もあります。又月1回訪問歯科による口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理についての相談は、診療所の看護師、デイの看護師に助言をして頂き対応している。今後は、訪問看護師との医療連携はかかっていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での対応が可能な段階で早急な退院が出来る様に情報提供を・病院の地域連携室のソーシャルワーカーと話し合いに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	著しい体力低下や症状の悪化が見られた際は往診医の指示に従い紹介状を持参し入院対応を行う。ターミナルケアについては、往診医、ご家族、ホーム長、ケアマネジャー等で出来る事、出来ない事を話し合い検討し実施している。	終末期や重度化した際の対応指針を定め、重度化した場合、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っています。今年度は、家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員と連携を密に図り、2件の看取りを行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習に参加をして手当や初期対応の習得に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和2年9月より開始の為年2回(10月、3月)の消防訓練を行っており、役割分担にて訓練の実施に努めている。尚、コロナウイルス感染でスタッフ中心の訓練となる。	今年度はコロナ禍の為、消防署の立ち合いは無く、夜間想定を含む職員中心の自主訓練を2回実施しています。7日分の備蓄とカセットコンロや懐中電灯、携帯ラジオ、防災頭巾等災害用品を準備しています。	年1回災害避難訓練実施と処方箋又はお薬手帳を入れた緊急時持ち出し品の整備、および、一昨年あった県内の長期停電を踏まえ、安全な避難先の検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを把握し、尊厳を保てる様に介護の必要性を予め説明し、支援に努めており、個人情報の取り扱いについては同意をして頂き、細心の注意をはらっている。	事業所内研修で一人ひとりの誇りを尊重しプライバシー確保の徹底について話し合い、日々の関わりの中で言葉かけなど、問題があれば都度その場で指導しています。個人ファイルは施錠した場所に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話し合いや意見交換の場を設けており、本人に自己決定できる様な説明を行い納得して生活が送れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし、意見を尊重したうえで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容院や外出時には化粧品や洋服選びなど、自己決定ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に盛りつけをしたり又好みや体調に応じた食事の提供をしている。また、普段の食事と違う雰囲気味わって貰う為、希望に応じて出前などの提供も行っている。外食も考えていましたがコロナウイルス感染で中止となりました。	食材は業者からの配送で、桃の節句のちらし寿司等行事食は楽しみの一つです。外食はコロナ禍により中止していますが、寿司・ラーメン・そばの出前、駅弁の提供等を数回行っており、利用者から喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分の摂取量を記録し栄養を考慮した摂取が提供できるように支援している。また、摂取が少ない際には希望の物を用意するなどの工夫をしている。体重も毎月測定し、経過観察に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯の方については夜間に外して頂き洗浄消毒を行っている。また、口腔ケアも含め、問題が発生した際は訪問歯科に依頼をして医師からの相談、指導を賜っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人がトイレで排泄できるように排泄パターンと排出サインの把握に努め、声掛けなどによるトイレ誘導を行っている。	利用者の多くがリハビリパンツを着用しています。排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって、声掛け誘導し、トイレでの排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の状態を把握して適度な運動や食事による排便リズムの改善に努め、医師や訪問看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制的な対応はせず、本人の希望に耳を傾けて対応している。また、入浴中も本人のペースで入浴できるように状況に合った対応を心掛けている。	基本は週2回の入浴で、1日あたり3名を支援しています。発熱など体調に合わせて足浴や全身清拭に切り替え、清潔の保持に努めています。入浴を拒む人には、言葉かけや対応に工夫をして、一人ひとりに合わせた支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようにマッサージ・湯たんぽ・布団干しなどゆっくり休める環境を提供している。状況に応じて適度な休息を保てるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や薬の内容を把握して服用時の様子を観察し、状況に応じてかかりつけ医に相談、助言を頂き服薬の最少化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や残存機能を把握し役割をみつけて互いに生活を送れる関係作りに努めている。気分転換が図れるようにレクなどの提供も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染で中止となる。	コロナ禍のため戸外への外出は控え、ベランダでの日光浴や、ボール投げ、壁に向かい歌う、ラジオ体操、ぼろきれを切る、洗濯物たたみ、紙のゴミ箱作り、感染予防対策としての消毒液を使っのテーブル拭きなど、屋内でも生き生きと過ごせるように工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染で中止となる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は施設内の電話を使用して頂き、本人持参の携帯電話にてご家族と連絡をしている。手紙でのやりとりも代筆にて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて常に清潔な施設を心掛けている。不快のないように居室やトイレなどを分かりやすく表示して配慮を行っている。	コロナ禍対策として、1・2階にオゾン空気浄化装置設置、随時換気を行い、掃除・消毒を毎日2回ずつに強化、テーブル拭き・消毒は食事前後毎回実施する他、ホールでのラジオ体操や歌を歌う時は一列に座る等工夫して過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気持ちの通えるように空間作りやトラブルの起きない座席での配慮を行っている。一人ひとりがゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されてきた家具や貴重品をそのままお持ち頂く事で自宅に近い雰囲気作りに努め、環境整備を行い快適に過ごして頂けるように支援している。	居室はやや広く、整理が行き届き、利用者が快適に過ごせる様に配慮されています。コロナ禍の中、換気に配慮し、転倒に備えて人感センサーを設置したり、動線確保に努めています(平均年齢88歳、90歳超7名)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動の抑制をしない為に危険性のある物品の排除や移動を行い、自ら考えて行動できるように努めている。日時を意識して頂けるように日めくりカレンダーやアラーム付の時計の設置をして生活習慣の支援に努めている。		